

私の趣味

「釣りとガラクタ de 我楽多リサイクル王国」

11期 井上文男

野口大兄が趣味とは個人的なものと言われていました、一人黙々と水面を眺めて過ごし楽しむ「釣り」は趣味そのものですね。楽しむといっても、単なる娯楽でなく平和な江戸時代には釣りが「武士の嗜み」とされていたのは心身の鍛錬になったからでしょう。

6年前から家より8km前後の大和川河口北岸に雨の日以外自転車釣行するようになって、確かに足の筋肉がつき半日日光を浴びるので夜10時前後にボタンキュー熟睡早朝4時前後にスカッと覚醒する全くの健康生活になりました。

70過ぎて仕事なくなり「やることなく」終日深夜零時過ぎまでテレビ前のごろ寝、そのあと3、4時ごろまで本等読んだり 翌朝は11時ごろ起きるの毎日、足の筋肉痩せ衰え、末は「寝たきり認知」になるばかりと思いつつテレビを消すことができず、漫然とテレビを見てるとやる気がどんどん削除されていく悪循環の不健康生活から解放され、人との接触無く コロナ渦とも無縁の毎日です。



釣りのきっかけは、魚好きの家内が食事の時「冷凍でなく新鮮なおさかな食べたいなあ」と愚痴った、「自分で釣ってくるしかないやろ」でした。

河口ですから食用になる海の魚がやってきます、狙いはチヌ（黒鯛）・その仲間キビレそして高級魚スズキです。

そのほか一番多いのがボラですが、これは臭くて戦後の食糧難時代には貴重な蛋白源で食べられていましたが、今はリリース、しかし、今年になってベトナムの研修生たちが来るようになり彼らは食べると言い進呈すると喜んで持つるので釣り甲斐ができた、そういえば数年前までは時々来る漁船が網から捨てて居たのですが、今は捨てなくなり中国が買うとかという話を聞く。

河口の魚は、食餌の関係か独特のにおいがある、煮たり焼いたりするとその匂いを消す料理法が必要で、今の一般の奥方には無理で魚屋は扱いませんが、味は同じでキビレでも鯛は鯛、刺身だと不思議なことにその臭みが薄く気にならず旨い、家の台所でやると鱗が飛び散り生臭いと家内が怒るので、河原で鱗・内臓をとる荒裁きをして持ち帰るようになりました。

釣っても持ち帰らずリリースする常連は、まさに釣ること自体、魚とのやり取り手ごたえを楽しむ、潮時・時合・風向・魚の習性・釣り針を投げ入れる位置・仕掛け・エサなどいろいろ自然を考察し工夫し、当たった時のパズル解きの快感を求めサイズや数でその楽しみが大きくなるだけで、実利の魚自体には価値を求めぬ純粋な遊びで全趣味ですが、その点私は半分魚自体実利が目的ですから半趣味です。

ですから、他の常連たちのように4本も竿を立て、常時、その竿先の振動である魚信を監視し待ち続ける精神修養はできず、3本釣り竿を立てたあと見守れるのは1時間程度でうろうろし始めます。

気になったのが、毎日漂着する空きペットボトルなど生活ごみ、せつかく、青い空、白雲、さわやかな海の風、心和ませる波の音と自然に溶け込んでいるのにこの現代文明 繁栄自業自得 結果ゴミゴミ問題の集積醜悪さ、せめて目の前だけでも取り除こうと拾い始めた。

それが2年前”ガラクタ de 我楽多リサイクル王国”建設の始まりでした。これまた、長い話になり今の私のPCドライブ領域不足でこれ以上続けられず、釣りだけ送信、王国は次便にいたします。